

職員による自己評価

A環境面

職員配置については適切かどうか、どちらともいえないという意見が多かった。バリアフリー化はされている。ベッドやマットに臥床する方が多いのでスペースは足りていないという意見があがった。

B児童への支援内容

多職種で計画の立案を行い、振り返り、評価が出来ている。子どもの状況に応じて、集団活動と個別活動を行っている。個別活動では好きな事、得意な活動を行い、お手伝いでは誰かの為になる事で達成感持ってもらえるように

C関係機関との連携

学校とは送迎時や電話にて相談等行えている。病院等の医療機関とは併設する、なごみクリニックの医師を通して出来ている。他通所事業所との関りがあまり作れていない。

D保護者への説明責任・信頼関係

支援や活動の様子を連絡帳や送迎時に伝えているが時間等の問題で全ては伝えられていないが面談や保護者会で十分説明する事が出来た。

E非常対応

年に2回地震と火災想定避難訓練を実施。又、災害用の2日分の注入物品の預かりを行っている。事故、ヒヤリハット、不適切行為について事業所内で日々共有している。

保護者による評価

A環境面

活動スペースや職員配置、バリアフリー化等の評価は概ね高い評価であった。約1割の方からどちらともいえないという意見があった。

B児童への支援内容

個別支援計画については本人、保護者の意見が反映された計画になっているとの評価であった。活動についても同じ活動にならないように工夫されているとの評価であった。放課後児童クラブとの交流や障害がない子どもと活動する機会の有無については3分の1の方がどちらともいえない、出来ていないとの意見であった。

C事業所からの情報発信

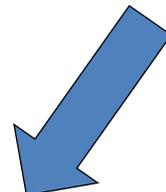
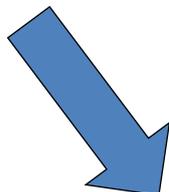
日々の様子や活動や行事については、「放デイだより」、広報誌、ブログでの発信は出来ている。保護者会でのスライドと説明で活動の様子を知る事も出来た、動画も見たいといった意見があった。

D保護者への説明責任・信頼関係

日々の支援の内容は都度説明されているとの評価であった。面談時にこどもの発達状況や困っている事を相談が出来ているとの評価であった。苦情についての説明が不十分との意見があった。

E非常対応

非常時の対応や避難訓練の実施等、概ね評価を頂いているが保護者に対して緊急時、防犯、感染マニュアルの周知・説明が不十分との意見があった。



事業所内での分析

【共通点】

- ・保護者会やワークショップを行う事で活動の様子を見てもらう事が出来た。普段の送迎時等は話す時間が少ないのでその機会を作れた事が良かった。
- ・計画について面談時に保護者と事業所側で本人の強みや得意な事、困っている事や苦手な事も話せているので子ども一人一人に合った計画が立てられている。

【相違点】

- ・事業所側は支援や請求に関する事、保護者からの相談、指摘に関して丁寧に説明しているつもりであったが説明が不十分であるとの意見があった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

面談時に細かく聞き取りを行い、計画や日々の支援に活かすことが出来ている。多職種連携する事で色々な角度からアプローチする事ができている。クリニックが併設されており、看護師3名を配置する事で医療的ケアがある子どもが安心して通所できる。

事業所の改善点

避難訓練や非常時、防犯や感染について面談の際や保護者会の時間を利用して説明を行っていく。また支援についてだけでなく事務的な連絡など細かい部分に関しても丁寧に説明を行っていく。

事業所の改善への取り組み

- ・非常時や災害時のマニュアルは整備されているので、それを保護者に伝えられるように面談時や保護者会の時に説明の時間を設ける。
- ・支援やそれ以外の連絡や事業所の変更点があれば速やかに保護者に説明、報告を行っていく。又、口頭で説明する事もあったが今後は文書でも伝えられるようにしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度の支援に関しては「人とのつながりを大切に」というテーマで1年間行い、活動や日々の過ごしを通して友達や放デイ以外の職員や地域の方など色々な人と関わる事で子ども達の色々な面や成長する姿が見られたと思う。今後も支援に関しては人とのつながりは大切にしながら新たなテーマを決めて子ども達との時間を過ごせればと思う。

子どもをお預かりする中で保護者との信頼関係は非常に大切な事なので説明や連絡についてもっと丁寧にやっていかなければならないと感じた。